

道徳通信

～ 夢の力 ～

愛西市立八開中学校

道徳通信

令和4年2月24日

黄ブロック職員

リオデジャネイロパラリンピックの「二條実穂」選手の実話から、「夢の力」について考えました。

中学生時代はソフトテニス部に所属し、将来はどんな職業を選択するか決めていなかったという二條実穂さん。高校入学後、具体的に将来について考えるようになり、「建築の道」を選びます。やがて専門学校に進学、卒業後は建築会社に就職し、念願の「大工」になりました。仕事に励みながらも好きなテニスも続けていました。22歳の時には、「棟梁」として現場を任せられ、「日本一の大工」をめざします。しかし、ある日の作業中、貧血で高所から転落、背中を強く打ち背髄を損傷。この日から車いす生活になりました。当たり前に行っていたことができなくなってしまったことを実感する日々……。そんな時、運命的な出会いが訪れます。偶然見ていたテレビで、「車いすテニス」の存在を知ります。車いすテニスを始めた二條さんは「パラリンピックで金メダルを取って世界一になる」という新しい夢をもちます。2016年、念願だったパラリンピックに出場し、結果はダブルスで4位。二條選手のそばにはいつも「夢」がありました。この教材を通して、「夢がもつ力」について考えました。

●● ●● さん

夢や目標は、必要だと思った。夢や目標をもつことで頑張れると思った。大きな夢や目標が絶対必要なわけではなく、一個一個小さい夢や目標でいいと思った。

●● ●● さん

夢や希望があったほうが原動力になっていいと思う。夢がなくても生きていけるけれど、希望もないからあまり人生が楽しくないと思う。小さな夢でもそれが積み重なって大きい夢に繋がるからいいと思う。

●● ●● さん

大きな夢があって、その夢を達成するために小さな夢を叶えていくんだと思う。小さな夢もたくさん叶えれば大きな夢になると思った。

●● ●● さん

夢は人を変えてくれる。その大きさは小さくても大きくてもそれは変わらない。

●● ●● さん

夢がないと人は変わらないと思った。二條さんみたいに大きな夢をもった方が努力しがいがあると思う。

●● ●● さん

夢や目標がないと人は変わらないと思う。大きさは関係ないと思うけれど、夢や目標は何かを目指す原動力になったり、いざとなった時の心の支えになったりするから必要じゃないかなと思った。

●● ●● さん

夢があると人は自分を高めていけると思った。大きな夢がなくて小さな夢でも自分にとって価値のある夢であればどんな夢であってもいいと思った。夢の力は自分の原動力ややる気になると思った。

●● ●● さん

夢がなくても成功することもあるけれど、夢をもった方がその道を走りやすいと思った。

●● ●● さん

大きな夢は頑張れる力が大きいけど、達成するのが難しい。小さな夢は達成したら、大きな夢に近づく夢を考える。これを繰り返して大きな夢に近づいていく。

今回は、初の完全な「オンライン道徳」でした。Jamboardでの話し合いでは、遠く離れていてもみなさんの一生懸命考えている気持ちが伝わってきました。

道徳通信

～ 夢の力 ～

愛西市立八開中学校

道徳通信

令和4年 2月28日

黄ブロック職員

リオデジャネイロパラリンピックの「二條実穂」選手の実話から、「夢の力」について考えました。

中学生時代はソフトテニス部に所属し、将来はどんな職業を選択するか決めていなかったという二條実穂さん。高校入学後、具体的に将来について考えるようになり、「建築の道」を選びます。やがて専門学校に進学、卒業後は建築会社に就職し、念願の「大工」になりました。仕事に励みながらも好きなテニスも続けていました。22歳の時には、「棟梁」として現場を任せられ、「日本一の大工」をめざします。しかし、ある日の作業中、貧血で高所から転落、背中を強く打ち脊椎を損傷。この日から車いす生活になりました。当たり前に行っていたことができなくなってしまったことを実感する日々……。そんな時、運命的な出会いが訪れます。偶然見ていたテレビで、「車いすテニス」の存在を知ります。車いすテニスを始めた二條さんは「パラリンピックで金メダルを取って世界一になる」という新しい夢をもちます。2016年、念願だったパラリンピックに出場し、結果はダブルスで4位。二條選手のそばにはいつも「夢」がありました。この教材を通して、「夢がもつ力」について考えました。

●● ●● さん

夢をもっていない人より、もっている人の方が、その夢を叶えようと努力をして後悔のない生活を送ろうとするから夢を抱いて損はないと思う。しかし、二條さんのように大きな夢をもつこともよいけれど、小さな夢をコツコツと叶えていくことも大切だと思った。

●● ●● さん

夢をもつことで人はすぐにその目標に向かって努力をして、仮に夢が叶わなくても、努力をしたことには間違いはないと思いました。僕もまだ明確に夢は決まってはいませんが、夢が決まったら実践、努力を積み重ねていきたいです。

●● ●● さん

夢や目標があることで、それに対して努力をしてそのことが生きがいになったりすると思うけど、夢は別になくてもいいと思った。大きい目標を無理に考えなくても小さい目標があればいいと思った。

●● ●● さん

大きくても小さくても夢や目標はもつべきだと思う。例として、受験生は早期に志望校を決めるべきだといわれる。ゴールを決めることで、ペース配分などができるようになる。目標やゴールがないと、ただただら過ごすこととなる。

●● ●● さん

夢をもつことは自由だと思う。だからどんな夢をもっていて生きていくためのモチベーションになればそれでいい。夢の大きさが違ってその人にとって大切なものだということは変わらないと思うから。

●● ●● さん

私は夢をもつことは大切なことだと思った。大きくても小さくても、夢があるからこそ頑張れることがあると思う。もっていかなくてはいけないということでは無いけれど、もっている人ともっていない人では力の大きさが違うのかなと思った。具体的な夢は無いけど小さなことでも夢をもちたいと思った。

●● ●● さん

夢は絶対に必要なものではないと思うけど、夢をもつことでもっと良い日々を過ごせるようになると私は思う。小さな夢でも大きな夢でもそれを叶えたときの喜びを感じられるし、その喜びを感じるために頑張ろうと思えるから。

道徳通信

～ 夢の力 ～

愛西市立八開中学校

道徳通信

令和4年 3月1日

黄ブロック職員



リオデジャネイロパラリンピックの「二條実穂」選手の実話から、「夢の力」について考えました。

中学生時代はソフトテニス部に所属し、将来はどんな職業を選択するか決めていなかったという二條実穂さん。高校入学後、具体的に将来について考えるようになり、「建築の道」を選びます。やがて専門学校に進学、卒業後は建築会社に就職し、念願の「大工」になりました。仕事に励みながらも好きなテニスも続けていました。22歳の時には、「棟梁」として現場を任せられ、「日本一の大工」をめざします。しかし、ある日の作業中、貧血で高所から転落、背中を強く打ち脊髄を損傷。この日から車いす生活になりました。当たり前になっていたことができなくなってしまったことを実感する日々……。そんな時、運命的な出会いが訪れます。偶然見ていたテレビで、「車いすテニス」の存在を知ります。車いすテニスを始めた二條さんは「パラリンピックで金メダルを取って世界一になる」という新しい夢をもちます。2016年、念願だったパラリンピックに出場し、結果はダブルスで4位。二條選手のそばにはいつも「夢」がありました。この教材を通して、「夢がもつ力」について考えました。

●● ●● さん

夢をもつことで、自分の限界を超えることができると思う。初めは小さい夢でも、それを超えながら歩いていくことで新しい自分に出会うことができると思う。自分の殻を破って人は成長していくと思う。

●● ●● さん

小さくても大きくても夢はなんでもいいと思う。明日〇〇したい、いつか何々になりたい。全てが夢のように感じるから。夢だと気づいてないだけで意識してないだけで、もしかしたら達成している夢もあると感じた。

●● ●● さん

夢をもつことは必要だと思った。この人のように大きい夢をもつこともいいと思うけれど、小さい夢でも全然いいと思った。夢というのは生きる希望をあたえてくれるし、叶えた後でも、自信をもって生きられると思った。

●● ●● さん

夢があった方が生きやすいなと思った。でも夢はなくてもいいと思った。いつか見つかるから。今は楽しむのが一番だと思った。そうしたら夢が見つかると思う。

●● ●● さん

夢のメリット：目標ができ、その目標に一步前進すること。デメリット：周りが見えない時がある。

●● ●● さん

夢は何かをやってみたいと思う気持ちで、それが身近なもので小さくてもそれは立派な目標、夢と言えると思った。

●● ●● さん

夢があってもなくても生きていけるし、それが小さくても生きていける。夢があり、さらにそれが大きいものであれば、より豊かで激しく動く人生になると思うけど、夢がなくても、それはその人がこれだって一番興味をもてるものがなかっただけで、生きていけないというわけではない。

また、夢が小さいからその人が不幸か、平凡かって言われたら、そういうわけでもない。それがその人の中の「こうなりたい」、「こうしたい」という望みだから。「これになる」だけが夢じゃない。「こういう生活がしたい」も夢。